

6月23日(火)「ようこそ先輩チャペル」

今回は「ようこそ先輩チャペル」です。これは、新島短大を卒業し、進学や就職など新たなステージで活躍されている卒業生をお招きし、後輩に向けて奨励をしていただくチャペルアワーです。お招きしたのは、生方孝枝さんと塩野未来彦さんのお二人です。身近な先輩の言葉は、これから次のキャリアを目指す学生にとって何よりの励みとなった事でしょう。同時に、先生方にとっても、教え子の活躍を感じる、何よりの機会となりました。初夏を迎えた、ここ新木造校舎二階『新島の森』は、夢を実現させようとする若者の想いが満ちあふれ、この場にいるすべての人が元気づけられる、素敵なチャペルになりました。

◆生方 孝枝 (コミュニティ子ども学科 卒業)

生方さんが新短で学んでいたのは、コロナ禍で緊急事態宣言が叫ばれていた頃でした。通学すらままならず、友人とのかかわりにも気を遣わなければなりませんでした。しかも生方さんは、委託訓練生として学ぶ社会人学生、世代の違う同級生と一緒に学生生活を送れるかどうか、不安もあったそうです。久しぶりの学生生活は、その多くがリモート授業になるなど、今まで経験したことが無いことばかりでした。しかし、同じ苦労の中で学ぶ仲間の結束は固くなるもので、在学中は良い関係を築き、一緒に楽しく、そして真剣に学びました。卒業して何年もたつ現在でも、同級生との交流は続いているそうです。

生方さんは現在、独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設「のぞみの園」内、児童発達支援センター「れいんぼ〜」に勤務しています。そこでは、集団になじみにくい、コミュニケーションがとりにくいなど、発達に課題がある子どもを対象に一人ひとりのニーズに合わせた療育を行い、家庭や学校での対応について一緒に考えていきます。多様な役割を持つスタッフが互いに上手く連携し、子ども一人ひとりの適性に合わせて対応を目指しています。「楽しい」「できた!」「チャレンジ!」をモットーに、常に肯定的に個人に接し、子どもたちが自信を持って、生き生きと過ごせる支援を実践している施設だそうです。

生方さんは、新島短大で学んだことで良かったこと、現場で役に立ったこと、を三つ挙げて説明してくれました。

- ① 自分はこだわりがあり、我が強い性格の学生であった、新短にはそこを受け止める懐の深さがあった。教職員にはいろいろ相談にも乗っていただいた。キリスト教的な考え方や、社会福祉に触れるキッカケを作ってくれた。
- ② 造形の授業や、PC でのパワーポイントの実習が役に立った。保育の現場は資料・教材づくりが本当に多く、仕事をしながら学ぶのは大変。手仕事でもデジタルでも、実際に資料や教材を作った経験があるのは、現場に出て非常にありがたかった。
- ③ コロナ禍でリモート授業がほとんどだった。学園に通学できないことが多く、残念だった。しかし、その分、集中して授業に臨んだ。

そしてまとめとして、次のように語りました。

「人生にムダなことは一つも無い!という事を、身をもって経験した。今しかできないことを、精一杯やってみた。思えば、理想的な学園生活を送れていたのかもしれない。」これは、たいへん印象深く、キリスト教的真理を言い表した言葉だと感じました。最後に、みんなで出来る「手遊び歌」を紹介してくれました。次第にチャペ

ル全体が引き込まれて、みんなで一緒に歌い、チャペル全体に笑顔があふれました。

実は生方さんは、子どもの頃から有力な水泳の選手で、いわゆるアスリートです。マスターズ水泳の日本記録保持者にして、世界大会の優勝者でもあるのです。仕事、子育て、水泳のトレーニング、ひとりで何役もこなす、まさしくスーパーレディ。貴重なお話をありがとうございました。

◆塩野 未来彦（キャリアデザイン学科 卒業）

簡単に自己紹介をします。出身は長野県で、新短の活動としては茶道部の部長をやっていました。あわせて学生広報スタッフとしても活動していました。その後、高崎経済大学の地域政策学部編入学をして、現在は四年生です。

新短時代を振り返ると、一番印象に残っているのは何といっても茶道部での活動です。コロナ禍で学生生活、とりわけサークル活動などは一切できなくなりました。そこからの再開、いくなれば活動を復活させる役割がありました。私は部長として部員をまとめる立場だったので、大変なこともありました。また茶道部は、部活動のために、教えて下さる先生を学外からお招きしなければなりません。クラブの活動は、学内の対応や、学外の対応その他、多くの責任があることを知りました。そうした対応や活動を通して、人との関わり方や代表者としての責任感など、多くのことを学ぶことができました。

学生広報スタッフとしては、オープンキャンパスでの説明や、案内が主な任務でした。大学事務の入試・広報課の方々と相談したり、担当の先生方にもご指導をいただくなど、オープンキャンパス当日だけでなく、準備の段階も重要でした。本番の日に、高校生や保護者の方にどう紹介すれば、より効果的に新短を知ってもらえるかを考えることは、自分でも新短の良いところを改めて確認する時となりました。本当に、勉強以外にもたくさんの良い体験ができたと思っています。

私は、一年生の時から編入学を目標に、勉強を続けていました。編入試験は、必ずと言っていいほど小論文が課され、大きなウエイトを占めます。【小論文を必ず一日に一作品仕上げる】、を自らの課題として継続していました。その対策として、NHKの『時論公論』というニュース解説番組のテーマをもとに書いていました。

現在では、地域政策学部の学生として、地域に関わる活動を実践しています。高崎市内でえびす講の時期にあわせて行われる「熱血!高校生販売甲子園」があります。この実行委員会は、高崎経済大学の学生で構成されていて、170名を超える学生が企画・運営を担っていて、私もその運営に携わっています。他にも、「孫マネージャー」というボランティア活動で、地域の高齢者の方と交流したりしています。

就職活動は三年生の夏頃から始めました。早めに始められたことで、自己分析や企業研究をしっかりと進めることができました。その結果、今は納得できる結果を得て、就職活動を無事に終えられたと思います。そして今は社会人になる準備段階として、各種の資格試験の勉強に取り組んでいます。

最後に、今後の展望を話します。私は、社会人になってからも、新しい知識を身につけるために、さまざまな学びを続けていきたいと考えています。私は欲張りなので、仕事だけでなく、旅行や趣味などにも積極的に挑戦するつもりです。温泉巡りや、筋トレが趣味なのですが、他の新しいことにチャレンジして、自分の経験値を増やしたいです。ちょうど今のタイミングは、皆さんも編入や就活で大変な時期ではないでしょうか。ですが、時には気分転換に、勉強だけではなく、部活動やサークル、ボランティア活動など、少しでも興味があることには挑戦してみてもどうでしょうか。自分の好きなことに打ち込んだり、没頭することは、ご自身のキャリア形成に必ず役に立つはず。今は編入試験や、就職活動で頭がいっぱいでしょう。しかし、その先にある進学した学校や、就職した職場を考えてみたらどうでしょう、何かに取り組んだ経験はきっと役立つと思います。ご清聴ありがとうございました。